

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の推進
特に今年度は「対話力」に焦点をあて、研究部、生徒指導部共に研究を進める。

具体的な取組

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の推進
・「対話力」をテーマとして研究・研修を進め、教科の資質能力の獲得へ向けて、考え甲斐のある言語活動の設定を検討する。
・学習課題に応じた「まとめ」と「振り返り」を行うことを徹底することで、思考力・判断力・表現力などの効果的な育成を図る。
- 2 TT授業、分割授業を積極的に活用し、個に応じた指導を心掛ける。
- 3 自ら課題や疑問点を設定し、調べ解決しようとする過程を大切に、主体的に学習に取り組む力を身に付けさせるために、総合的な学習の時間の内容の見直しと体系化をさらに進める。
- 4 京都市スタンダードに基づく指導を徹底するとともに、京都市小中一貫学習支援プログラム・全国学力学習状況調査結果を十分活用し、結果分析を踏まえた授業改善を図る。
- 5 GIGA端末を授業で積極的に活用し、学習意欲を高める工夫や協働学習の形態から学力向上につながるような工夫を研究する。
- 6 LD等支援の必要な生徒の課題を明確にとらえ、行動面でだけでなく学力面への支援を充実させるために個別の指導計画などを活用し、子どもの実態に応じた適切な支援を行う。

分析 (成果と課題)

- ・前年度終わり、前期時点で停滞していた現3年生の学力結果が改善した。
- ・1年生に対する授業改善の取組を教科担当で共有し行っているがまだ成果は出ていない。
- ・後期に入ってからアンケートから生徒の授業や学習に対する評価としては肯定的なものが増えた。
- ・「対話」を心がけるといふ今年度の重点取組は生徒に広く認知されている。ただし、その質は不十分なところもある。
- ・次年度へ向けて「対話力の育成」に加え「問いを立てる」を設定し、さらなる課題解決型の授業改善に取り組む。また、重点取組として家庭学習と授業の往還を充実・評価材料を集めることをさらに求める。
- ・総合育成支援の視点からの発話や授業の約束事、環境整備の見直しを図る。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- 1 多様性を正しく理解・認識し、互いを尊重し、共に成長し合う集団作りの推進
- 2 道徳教育の充実により、支え合い高め合う集団作りの推進

具体的な取組

- 1 宿泊体験、職場体験、ボランティア活動などの体験活動や各教科・外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動等のカリキュラム関連を図り、道徳的価値の理解を深める指導を充実させる。
- 2 伝統文化体験(華道)などを通じて、伝統文化を生み出し守ってきた人々の長い歴史と情熱、その優れた知恵や技を受け継ぐことの大切さを理解する取組を充実させる。また、乳幼児との触れ合いを通じて、命の温もりや尊さを感じたり考えたりすることを重視した取組を充実させる。
- 3 挨拶の励行、学習規律の徹底、基本的生活習慣の確立、生徒会活動などを通して、子どもが望ま

しい人間関係を築き、集団の一員として協力する態度を育成する。インターネット上での誹謗中傷やいじめ、情報流出、不用意な発信等により、他者を傷つけることがないように、また、性的被害等から子どもを守るため、正しい知識と判断力を身に付けさせる。

- 4 障害についての理解と認識を深め、互いを尊重し共に成長し合う教育を行う。また、性同一性障害や性自認・性的指向の多様性について教職員自身が正しい知識をもち、子どもが相談しやすい環境づくりに努める。
- 5 いじめが絶対に許されない人権侵害であることを理解させ、自分の大切さとともに他者を大切にできる人権感覚を高める取組を行う。また、子どもの状況を的確に把握し、SC・SSWなどの専門職との連携やクラスマネジメントシートの活用など多角的な視点をもって対応し、不登校傾向の生徒への支援のみならず、すべての子どもがいきいきと学び、友人関係を育むことができる魅力ある学校・学級づくりに取り組む。
- 6 生徒理解、生徒の自己指導力を育成する取組、不登校傾向生徒に対する取組を推進する。
特に「認知行動療法」の視点を学ぶ（桜美林大学 小関ゼミの協力を仰ぐ）こととし、生徒への働きかけについて研修を深める。

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・ブロックで指定を受けていた「しなやか道德」2年目として、小中で研修を行うことができた。
- ・「人権道德」としてウクライナにルーツのある方に外部講師として来校してもらった。生徒が前めりにお話を伺うことができた。
- ・縦割り型の取組から成果を実感している。
- ・縦割り取組での成果を実感しているので、継続して取組を計画していきたい。
- ・学習指導と生徒指導の一体化を図っていく。
- ・生徒の指導力を育てる意識を教職員間に醸成する必要がある。

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自らの健康、保持増進を図り、望ましい生活習慣を実践できる資質の育成

具体的な取組

- 1 【全国体力・運動能力・運動習慣等調査】の結果をふまえ、運動能力や体力の向上に向けた取組を家庭や地域と連携を図りながら、体育科の授業で実践する。
- 2 計画的な安全管理・健康管理を徹底し、部活動ガイドライン等に基づき、適切な休養日や活動時間を設け、安全で、より充実した活動に取り組む。
- 3 生徒会の健康安全委員会が【食事・運動・休養・睡眠】の調和のとれた生活習慣を身に付ける取組を行う。
- 4 性教育学活を通じて、エイズや性感染症、望まない妊娠、SNSを通しての性的被害などの課題について学校全体で共通理解を図るとともに、指導方法について十分に配慮して行う。新型コロナウイルス感染症のような新たな感染症をはじめとする病気やけがに対して、その原因や予防策を正しく理解し、リスクを自ら判断して行動をとることができるなど、自分自身の健康を保持・増進しようとする意識と実践的態度を育てる。
- 5 飲酒、禁煙、薬物の有害性や危険性について、保健体育、道徳などでの関連した指導や薬物乱用防止教室の実施を徹底する。特に違法薬物に関しては、その危険性を家庭・地域と共有し、薬物乱用を拒絶する規範意識の向上を図る。
- 6 災害発生時の避難方法や生徒の保護者引き取りなど、具体的な対応について危機管理マニュアルを再検討し、各家庭と共通理解を図る。

- 7 交通事故の加害者にも被害者にもならないように、自転車の安全な利用方法を徹底するとともに、自転車向け賠償責任保険への加入の推進について働きかける。
- 8 和食文化をはじめ、伝統的食文化の継承や「地産地消」を推進し、食生活の改善に向けた意識や関心を高める取組を行う。また、食物アレルギーのある子どもの学校生活を安心安全なものにするため、全教職員が正しい知識に基づいた適切な対応がとれるように研修を行う。
- 9 HANAモデル研修により教職員の実践力を高める。
- 10 教員の生徒理解、生徒の自己指導力や自己理解を進める取組として「桜美林大学 小関ゼミ」の指導の下、生徒が自分の心の問題（ストレスや不安）を分析的に捉えたり、前向きに捉えたりできるよう働きかける。

分析（成果と課題）

- ・規範意識の醸成については、家庭での認識と学校での様子がずれていることも見て取れる。
- ・不登校傾向生徒や課題があり毎日遅刻する生徒が一定数おり、昼夜逆転するなど、生活習慣の確立していないものがある。
- ・部活動ガイドライン等に基づき、適切な休養日や活動時間を設けて活動に取り組んでいる。
- ・HANAモデル研修には全教職員が取り組み、緊急時対応について学びを深めることができたが、課題も明らかになった。
- ・避難訓練や非行防止教室、情報モラル教室、自転車安全教室等に計画的に取り組んでいるが、「自分事として」捉え、考えさせる指導にするため、授業や取組改善に努めたい。
- ・健康教育に関する指導を継続深化して行う。
- ・保護者に向けての発信に努める。

（４）学校独自の取組

重点目標

未来を拓き しなやかに生きる子どもの育成

具体的な取組

- 1 よんきゅう絆プロジェクトとして、4中9小（北野中・朱雀中・中京中・西ノ京中・大將軍小・仁和小・洛中小・朱一小・朱二小・朱四小・朱六小・朱七小・朱八小）で小中一貫教育に取り組む。
- 2 北野中学校ブロック（北野中・仁和小・大將軍小）における連携強化
 - 6月 旧6年生担当との交流会〔授業参観・情報交換〕北野中学ブロック研究授業（大將軍小学校）
 - 8月 よんきゅう絆プロジェクト研修会〔全体会後：中学校ブロックの小・中学校〕
 - 9月 【中学校を知ろう！ふれあい探検 IN KITANO】（新入生学校紹介、授業体験）
 - 11月 北野中学ブロック研究授業（北野中学校）（仁和小学校）、中学校入学説明会
 - 12月 「人権標語」の交流（地域生徒指導連絡協議会とのタイアップ）

分析（成果と課題）

- ・学校評価アンケートでは、おしなべて肯定的な回答が多い。
- ・学習状況全国学力調査質問紙では、教科に関する質問事項において平均を下回るものが多い。生活や自分に関する項目は平均的・平均以上の肯定的回答が多い。
- ・生徒の実態から、生徒が「自分自身を見つめる」力を付ける必要を感じている。
- ・夏季研修の全体会は13校集合で行い、よんきゅうの取組の意義を確認できた。その後、中学校ブロックで生徒指導をテーマとする研修を行い、生徒理解に努めた。
- ・小中の取組に対する姿勢は違いが大きい。情報の共有等は進んでいる。
- ・情報共有を丁寧に行い、小中9年間で子どもを育てる意識の醸成に努めたい。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

教職員が自身の資質・能力の向上に励む時間を確保することにより、いきいきとした姿で生徒に向き合い、働き甲斐のある教職生活を送れるようにする。

具体的な取組

◎前例踏襲からの脱却をはかり、教育効果や教職員のモチベーション向上に働く取組を考えていく。

- ・学校行事・会議を精選、効率化を図り、教材研究やOJT、研究会活動や研修参加の時間を確保する。
- ・部活動指導、施設管理、働き方、環境の改革改善を進める。

【勤務時間について】

- ・放課後に事務業務を集中的に行える環境を整え、退勤時間を早める。
今年度より退勤時間午後6時45分、職員室施錠を午後7時とする。
これまで行われてきた職員室の鍵の持ち帰りを基本なしとし、職員室開錠は7時30分以降とする。
- ・電話対応時間は、北野中ブロックの2小学校とも協議の上、午後5時45分までとし、以降は留守番電話に切り替える。
- ・テスト前週間など部活動停止の日は、退勤時間を早める。

【施設・環境に関することについて】

- ・教職員からの聞き取りをもって環境改善に努める。
- ・生徒が放送や架電等で職員室に入ることが慣例であったが、今年度からは基本的にはなしとする。
- ・施設開放については状況判断しながらおこなっていく。(コミュニティプラザの取組以外は基本的に夜間は応じない。)

【部活動に関することについて】

- ・顧問に積極的でない教員が多い現状と生徒の実態に合わせ、外部委託やエリア制部活動等の制度を積極的に活用していく。

【PTAに関することについて】

- ・PTAの役員とともに協議を重ね、取組の見直しを図っていく。

分析(成果と課題)

- ・昨年度より職朝を原則廃止、勤務時間を下げて8時25分～16時55分に変更、朝に余裕が生まれた教員が多い。
- ・昨年度から退勤時刻は毎日19時に変更している。行事前やテスト前と言った時期等によって守られないことがある。
- ・会議を行う日は、5時間授業・部活動停止としたことで、放課後に事務作業に集中し、退勤時間を早めることができている。
- ・電話対応時間は校下3小学校と合わせて17時45分までとしている。保護者の中には共働き等でそれまでに対応できない家庭もあるのが現実で、受け止め方は様々だが丁寧に対応していくことが必要である。
- ・すぐーるを活用することにより、朝の電話対応が少なくなった。打ち合わせがスムーズに行えるようになった。
- ・GIGAスクール構想による授業の手法や採点ソフトの研修などを行い、活用できる教員が増えつつある。採点ソフトを活用する職員が昨年よりさらに増えた。
- ・職員室開閉錠、留守番電話、部活動停止日、部活動外部委託等の取組で超過勤務は改善されている。
- ・留守番電話時間(17時45分)の設定もほぼトラブルなく行えている。
- ・年休取得率は高い。できるだけ自習にならないよう時間割変更を行い、穴が開かないようにできている。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

些細な事案も見逃さず、的確に組織的な指導をおこない、生徒の命を守りきる。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- 1 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- 2 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- 3 「いじめ」に係る既存の「学校評価:生徒アンケート項目」を活用する。
該当項目・・・「学校は楽しい」「友達と仲良くできている」
- 4 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- 5 保護者や学校運営協議会等に学校いじめ防止基本方針や学校の取組を説明・周知している。

分析（成果と課題）

- ・いじめ案件や補導案件については、早期に把握し、丁寧に対応を行っており、大きなトラブルに至っていない。
- ・係を中心としたいわゆる報連相の体制が取れている。
- ・学年によっては頻発する生徒指導に指導できる教員の数が足りず、手が回らないことがある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・校内でのトラブル防止・早期発見に向け、休み時間や昼休みの全教職員による丁寧な生徒観察を継続していく。
- ・支援を要する生徒の特性をしっかりと理解し対応する必要がある。

項目に対して

- 1・・・係を中心として学年単位ではなく学校全体として対応を考えることができた案件がある。
全体に対しての発信を丁寧に行い情報共有に努める。併せてすべての教職員が自分事としてとらえるよう働きかける必要を強く感じている。
- 2／5・・・一部の生徒にとって聞き慣れない、わからないものという印象がある。
いじめアンケートの実施時など、折に触れての発信を行う。
- 3・・・概ね肯定的回答である。
- 4・・・丁寧な共有、対応の検討、データの引継に努める必要がある。
- 3／4・・・不安を感じてしんどい思いをしている生徒がいることは共通理解している。
支援を必要とする生徒の特性を共通理解し対応を検討することを組織的に行っていく。